

技術士第一次試験に合格して



大野 百恵

勤務先：

株式会社 NERC (ネルク)
 コンサルタント部
 〒060-0004 札幌市中央区
 北4条西16丁目1
 第一ビル4階

TEL 011-644-7330

FAX 011-644-7335

E-mail: ohno@nerc-hokkaido.co.jp

専門：環境・自然エネルギー部門

1. 自己紹介

私は大学に入るまで名古屋で過ごしました。高校の時に登山の面白さに目覚め、その後、山のあるところという条件で北海道の大学に進学し、現在に至っています。北海道の自然は期待以上に素晴らしく、住んで9年目になる今も、季節ごとに変わる自然に感動しながら会社に通勤する日々です。

大学では農学部森林科に在籍し、大学院では森林政策研究室で木質バイオマスエネルギーを利用できる社会、政策について研究を行いました。

卒業・修士論文を作成する上で、北海道大学工学部の先生が1999年に起こした今の会社に出入りするようになり、アルバイト期間を経てそのまま入社に至りました。

2. 入社した会社

私の務める会社は(株)NERCといいます。2006年4月に(株)北海道自然エネルギー研究センターから英語表記 Natural Energy Research Center を略して社名変更を行いました。名前の通り「自然(環境)」と「エネルギー」を「研究」する「センター」です。北海道を軸に事業を行ってきましたが、最近ではドイツや東京など道外での仕事が増えてきたため、北海道をとって「世界のセンターに」という思いで社名変更を行った次第です。社員9名の小さな会社であるため、自分の考えを社員全員に直接伝えることができ、また比較的自由に自分のやりたいように仕

事をさせてもらえ、その結果も自分の目で確かめることができるため、非常に居心地がよく、感謝しています。

しかし、技術士が一人もいないなど、未熟な部分も多く、力不足の感も否めません。

そのような経緯から会社でも技術士を目指そうという話が出て、私も入社2年目に初挑戦しました。

3. 環境部門の受験

周りに技術士の方がいないため、技術士試験とはどのようなものか想像がつかない上、試験前は仕事がかかり忙しく、正直あまり勉強できませんでした。しかし、大学で学んだ森林政策や自然エネルギーのコンサルタントという仕事上、環境部門の専門科目は比較的わかる問題が多く、助かりました。

苦労したのは基礎科目です。もう一度大学受験の気持ちに戻って、インターネットから練習問題を引っ張り出し、1週間くらいは仕事が終わったあとに集中して勉強しました。最初はまったくわからなかった問題も、慣れればなんとなくわかるようになり、技術士試験対策のホームページには感謝しています。

4. 今後に向けて

幅広く興味を持って、いろんなことを体験しておくと思わぬところで役に立つものです。

技術士試験の際は、学生時代、山登りする中でお手伝いした環境調査のアルバイトや市民団体等に首を突っ込んでいたことが、試験問題を解く上で、非常に役に立ちました。

今後とも、多くの分野の方とお付き合いし、幅広く勉強していきたいと考えています。その中でやはり私は環境・自然エネルギーという分野を専門として、より深く究めていきたいと考えています。

今日、地球温暖化対策や地域の自立が問われている時代にあって、自分の専門分野の視点から、地球や地域に少しでもお役に立てるような仕事ができれば、と思います。そのためにもまずは、環境部門で二次試験に合格して、できるだけ早く技術士になれるようがんばります。



沖崎 雅樹

勤務先：

株式会社 エスイーシー
情報処理事業本部
医療システム部
〒040-8632
北海道函館市末広町 18-16

TEL 0138-23-6596

FAX 0138-23-1472

E-mail : MasakiO@it.secnet.co.jp

専門：情報工学部門

1. 自己紹介

1982年(昭和57年)にせたな町に誕生し、海と山に囲まれた、自然の中で成長をしました。元来、病弱であった私ですが、自然の中を走り回るようになってからは体力もつき、健康体へ変化させるには十分な環境でした。

大学ではそのような生活から海に魅せられ、水産土木を学びました。仕事も海洋関係に就くものと、学生の私は考えていましたが、あるきっかけを経てそれまでとは異なったIT業界を志すようになりました。

パソコンを全く扱えない状態で入社した私でしたが、日々戦い続けた結果、少しはシステムエンジニアらしくなってきたと考えています。

現在ではデータベースやネットワークなどを主に担当し、その業務とは別に一部開発も行っております。システム障害を発生させないよう、保守作業などを精力的に行い、先端の技術をなるべく取り入れるようにしています。そして日夜スキルアップを目指しております。

2. 受験体験

私は学生時代に技術士資格を知りました。仮に、

学生時代に技術士資格を知ることがなければ、受験はおろか、巡り合うことさえもなかったかもしれません。

残念ながらIT業界の中ではまだまだ認知度が低いと私は考えます。

受験を決意してからは、情報工学部門の過去問題等の入手や出題傾向から対策を練りました。ただし、専門科目の情報量は少なかったと考えます。対策としては、過去問題に重点を置き、それに大半の時間を費やしました。専門科目の教科書としてソフトウェア開発技術者試験のテキストを活用し、基礎科目には特にテキストは使用せず、インターネットからの学習に取り組みました。

しかし、専門科目はある一定の手応えが感じることができましたが、基礎科目は勉強をしても伸び率の悪さが感じられ、合格は困難ではないかと感じるほどでした。そのような状況でしたが、追い込み段階で短期集中的な基礎科目学習をしたことが功を奏したようでした。

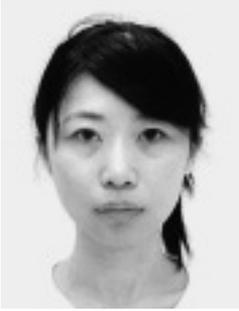
私の周りには同資格を受験する人がおらず、完全孤独な戦いでしたが、なんとか合格することができました。

3. 今後に向けて

技術士になることを目標とし、その受験までの期間を用い、さらなる技術の習得を目指していきます。それは技術進化の早いこの業界で生き残っていく術だとも考えます。

ユビキタス時代の到来で、ITは今後さまざまな分野への進出が考えられます。紙ベースで行われていたことが、パソコンを用いられることが多くなっていくでしょう。

そこには安全で確実なシステム開発が必要とされます。私はシステムエンジニアとしてその一端を担えることを願っています。



千葉 春香

所属：総合技研 株式会社
勤務先：
株式会社 ドーコン
水工部 河川環境室
〒004-8585 札幌市厚別区
厚別中央1条5丁目4番1号

TEL 011-801-1532

FAX 011-801-1533

E-mail：hch032@docon.jp

専門：建設部門

1. 自己紹介

私は道東にある津別町という四方山に囲まれる小さな町で生まれ育ちました。趣味はスキーです。

よく「女の子なのになぜ建設なの？」と訊かれます。単純に好きだからという理由なのですが、いつ頃から好きなのか思い返してみると、小学生の頃からでした。小学校5年生の時に学校の創立80周年を記念してタイムカプセルを埋めました。私のクラスは「将来の自分へ」という題で将来の夢について各自テープに録音したのですが、その時私がテープに吹き込んだ夢が建設系の仕事でした。公共物に興味があり、快適でみんなが住み良い町を考えることに面白みを感じていたのです。

大学は土木系の学科に進学し、河川に興味を持ち、大学のゼミは水工学研究室を選びました。大学卒業後最初の会社では、河川環境を調査する部署に所属し、主に底生動物調査や水質調査を担当していました。その他にも地下水位調査や底質調査、瀬・淵調査、時には川に流れてくるゴミの調査や雨天時の濁水調査等、様々な事を経験させて頂きました。昨年その会社を辞め、今年から今の会社にお世話になっています。因みに今興味があることは治水と河川環境です。

2. 受験に至るまで

技術士になるためには職務経験年数が必要なため、学生の時も会社に入ってすぐの頃も技術士は遠い先のものだという感じがし、2次試験受験に必要な経験年数に達してからでも良いかなと、ついつい一次試験の受験を先延ばしにしてきました。

しかし、ちょうど今回の受験申し込みの頃に会社を辞め、時間に余裕があったこともあり、これを期に試しに受けてみようと思いを決めました。

3. 受験体験

試験を受けるにあたり、まず適正と基礎科目の2年間分の過去問題を時間を計って解き、専門科目の過去問題も1年間分（これは時間を計らないで）を解いてみました。その結果、適正と基礎科目は何とかかなりそうだったのですが、専門が全く解けず、今年の合格は難しいだろうと半ば諦めていました。何度か受けて受ければ良いと考えていたので、特に対策を練って勉強したということは無いのですが、日々触れる情報の中で役に立ちそうな情報は極力見るように心がけました。

専門科目ではそのおかげで何問か解るものもあり、また、大学で習ったことや会社に入って得た知識と1週間前からの最後のあがきと運で、何とか合格することができました。

4. 今後に向けて

今回の受験には合格したものの、専門であるはずの河川の知識不足を痛感しました。自分に足りないものについて考える良い機会になったと思います。

いつか一人前の河川技術者になり、満足のゆく河川改修計画を作れるようになることが目標です。

そのためには、今与えられている仕事を疎かにせず日々精進し、4年後の技術士二次試験を視野に入れて今回の受験を通して勉強しなくてはならないと感じた分野の勉強を少しずつ進めていきたいと思えます。



長倉 学

勤務先：

アルスマエヤ 株式会社
技術部調査設計課
〒004-0054 札幌市厚別区
厚別中央4条3丁目7-17

TEL 011-891-1280

FAX 011-894-4703

E-mail : m-nagakura@als-maeya.co.jp

専門：森林部門（森林土木）

1. 自己紹介

私は恵庭市で生まれ、緑豊かな幼少期を過ごしました。釣りが好きで、近くの沼や川にいつも友人と出かけていました。高校に進学する頃には釣りからはめっきり足が遠のいていたのですが、ある時いつも釣りをしていた小川がコンクリートの護岸で固められて釣りができなくなっていることに気付き、大変ショックを受けました。そのことがきっかけで、土木の分野に徐々に興味が湧き始め、大学は土木工学科に進学し、河畔林の再生や植生の導入方法について研究を行っていました。

大学卒業後は、緑や自然に関わった仕事がしたいと考え、平成10年にアルスマエヤ株式会社に入社し、入社後は主に林道の測量・設計に携わり、現在に至っています。

2. 受験体験

私が始めて一次試験を受験したのは、平成16年でした。しかし、受験手続きは済ませたものの、「仕事が忙しい」という言い訳を周囲に振りまきながら、結局ほとんど勉強をしませんでした。結果は当然のように惨たんたるものでした。

翌平成17年、気持ちを新たに再チャレンジを決意したのですが、いざ本気で勉強を始めると、問題の難しさに啞然としました。特に基礎科目については、問題の意味さえも理解できない始末でした。しかし、

参考書やインターネットなどを活用して、過去問題を数多く解いていくうちに、段々とコツを掴むことができました。

専門科目についても対策は非常に苦労しました。私が受験した森林部門は受験者数が少ないため、参考書等は一切存在せず、過去問題の正答一つを導き出すのに半日かかることもありました。出題範囲も広く、林業・林産など専門の森林土木以外の知識も多岐に渡って要求されました。

また、勉強時間の確保にも頭を悩ませました。業務が忙しい時期は出張先に勉強道具を持参し、昔懐かしい単語カードを活用しました。早く自宅に帰ることができる日は、子供が寝静まる21時以降が私の勉強時間でした。このことでは妻の協力が大きく、とても感謝しています。

こうして受験勉強期間を振り返ってみると、業務・育児・勉強の両立は非常に大変でした。これ乗り越えることができたのは、家族の協力があったからこそだと思います。そしてなんと言ってもこの時に得た知識は、日常の業務をこなしているだけでは得ることのできない、大切なものであると思っています。

3. 今後に向けて

今後の当面の目標は、二次試験合格ということはあるまでもありませんが、二次試験合格に辿り着くまでにどのような道程を進むのかが重要だと思っています。私は一次試験合格者歓迎会に出席したのですが、そこで出会った技術士の方々がとても楽しそうに仕事をされ、多方面で活躍されていることにカルチャーショックを受けました。そして、いつか自分もこんな技術士になりたいと思いました。

これからは、技術力向上のための勉強はもちろんですが、それらの勉強や日常業務だけに縛られるのではなく、様々なところに視野を広げて、「引き出しの多い技術士」を目指すべく、日々研鑽していこうと思っています。